

光秀がくる



武智光秀

特別公演

「絵本太功記 尼ヶ崎の段」

2020年11月22日(日)15時～16時

太夫：内田美峰、藤井登美昇
三味線：竹本友和嘉
人形：勝浦座



木偶展「絵本太功記」

11月21日(土)～12月6日(日)

9時30分～17時(最終日は16時まで)

勝浦座所有の天狗久の作品や、
県内で活躍する人形師の作品など、
絵本太功記に登場する人形を展示します。



木偶制作実演



人形師の繊細で丁寧な技を、間近で
ご覧ください。

11月21日(土)

11月22日(日)

各日とも10時～12時、13時～15時

定期公演

「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」
も併せてご覧ください。
毎日11時～、14時～



徳島県立

阿波十郎兵衛屋敷

徳島市川内町宮島本浦184

Tel.088-665-2202

Fax.088-665-3683

料金 一般410円

高・大310円

小・中200円

主催 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

NPO法人阿波農村舞台の会

助成 徳島県あわ文化創造支援





初菊

操

十次郎

皐月

武智光秀

史実の明智光秀。主君の尾田春永(織田信長)に辱められ、本能寺でこれを討つ。

武智十次郎

光秀の子。初菊と祝言をあげ出陣するが、深手を負い光秀に戦況を報告し息絶える。

操

光秀の妻。「コレ見給え光秀殿」と光秀を諫めるクドキが見せ場。

初菊

十次郎の許嫁。十次郎の出陣を止めたいが、そうはできずに別れの盃を交わす。

皐月

光秀の母。謀反を起こした光秀を許さず、久吉に代わって光秀の竹槍に突かれる。

真柴久吉

史実の羽柴秀吉。主君の仇を討つため旅の僧に変装して潜伏。

尾田春永

史実の織田信長。本能寺で臣下の武智光秀に討たれる。

武智光秀(明智光秀)は、主君尾田春永(織田信長)の暴虐を見兼ね、天下万民のためと信じてこれを討つが、封建道徳にきびしい母の皐月は、主君に反逆した光秀を許さず、尼ヶ崎に隠居。そこへ光秀の妻、操が息子の十次郎の許嫁、初菊を伴って見舞いに訪れる。十次郎も出陣の暇乞いに来る。皐月の計らいで、十次郎は初菊との祝言をあげ出陣する。一方、真柴久吉は、光秀の旧臣に追われ、旅僧の姿で皐月の家に逃げ込み一夜の宿を乞う。久吉を追ってきた光秀は、竹槍でここぞとばかり、障子越しに久吉を突くが、そこにいたのは母の皐月であった。そこへ瀕死の十次郎が帰ってきて、もはや戦況は絶望的であることを告げる。皐月も十次郎も死んでしまい、人々の諫めも聞かなかった光秀も、ついに涙を流す。そこへ久吉が現れ、後日天王山で再び会うことを約束し、去っていく。

絵本太功記尼ヶ崎の段

光秀の涙、はら、はらと

勝浦座

江戸時代の寛政年間に「国村久太夫座」として、村の若者たちによって発足。現在上演できる外題は28演目にもおよび、国内外での上演のほか、昭和51年から毎年、徳島市八多町にある「犬飼農村舞台」で人形浄瑠璃芝居を奉納している。また毎年4月の第一大安の日には、和田島漁協の依頼で、漁場や漁船、加工場などで、漁の安全と大漁を祈願する「えびす舞」を行ったり、春秋のお彼岸には地神さんに「式三番叟」を奉納し豊作を願うなど、地域の信仰を支え、生活の中に息づく阿波の人形浄瑠璃の伝統を今日まで最もよく伝えている。

三味線／竹本友和嘉

豊澤町子に師事し、昭和51年初舞台。平成8年鶴澤友路師匠(人間国宝)に入門し、平成9年竹本友和嘉を名乗る。国内外で公演を行うとともに、後進の育成にも積極的に取り組む。平成14年に人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成21年には人形浄瑠璃因協会女子部門奨励賞、平成29年にとくしま芸術文化奨励賞を受賞。重要無形文化財(総合認定)保持者。

太夫／友和嘉会 内田美峰・藤井登美昇

平成9年に、竹本友和嘉師匠を指導者として発足。現在、会員数17名と徳島最大の語りの会へと成長。